

第 1 回廃棄物減量等推進審議会における振り返り（平成 30 年 8 月 7 日開催）

No	資料 No	審議会委員の意見	事務局等の回答等	修正内容等
1	No'5-1 事業評価報告書 (概要版)	・家庭系ごみ排出量・市民 1 日あたりの量について、良く読み込まないと、「市民 1 人 1 日あたりの量」とわからないので見出しを修正してもらいたい。	・修正します。	・見出しの「家庭系ごみ排出量・市民 1 日あたりの量」を「家庭系ごみ排出量・市民 1 人 1 日あたりの量」に修正します。(資料 1-2)
2	No'5-1 事業評価報告書 (概要版)	・再生資源の量の囲みの下にある挿絵で、「再生資源買取市」はどのような取組みか。また、今後も取り組んでいくのか。	・再生資源買取市は、再生資源等の持ち去り禁止規定の条例化により市の回収量が増加することを見込み、収集運搬の負担軽減のための策として、平成 28 年度（2016 年度）から実施しており、今後も継続する。平成 28 年度（2016 年度）は、小学校 32 校と環境事業所で計 168 回開催し、約 15t の回収量であった。平成 29 年度（2017 年度）は、小学校には車での持ち込みができないなどの問題があったことから、開催方法を見直し、再生資源の取扱い事業者と環境事業所で計 48 回開催し、回収量は約 17t と増加している。	・買取市のイメージ図の削除 (資料 1-2)
3	No'5-2 10 ページ 家庭系ごみ排出量・市民 1 人 1 日あたりの量	・「家庭系ごみの総排出量については、目標を達成しておらず、さらなる取組みの推進が必要となる。」とあるが、可燃ごみに多く含まれる、食品ロスと紙ごみの削減が取組みの重点的な課題と考えられる。また、取組みを進めていく上で、市民の意識向上や高め方がポイントとなる。廃棄物減量等推進員との連携を強化し、意識の高い方を活用するなど、具体的な取組み方の記載が必要と考える	・市民意識の向上や高め方については、平成 29 年度（2017 年度）に廃棄物減量等推進員と連携し、「レッツ水切りトライアル」や「フードドライブ」を実施している。平成 30 年度（2018 年度）から推進員が新たに委嘱されており、その方々と今後も連携した取組みが進められるよう検討したい。 ・コミュニティをどのようにうまく活用していくのか、ポイントになる。	・資料の修正なし。

No	資料 No	審議会委員の意見	事務局の回答等	修正内容等
4	No'5-2 10 ページ 家庭系ごみ排出量・市民 1 人 1 日あたりの量	<p>・災害のごみへの対策も必要である。(長谷川委員)</p> <p>・災害がれきや災害ごみの量は、家庭系ごみの量に含まれてくるのか。</p>	<p>・災害ごみについては、災害が起きる前から家等にあるものを減らすような取組みを紹介していきたい。</p> <p>・災害ごみについては、完全に分けて収集しているわけではないので、平成 30 年度 (2018 年度) の実績を集計した時には、災害分も通常のごみの量に含まれることとなる。</p>	<p>・資料の修正なし。</p> <p>・資料の修正なし。</p>
5	No'5-2 10 ページ 家庭系ごみ排出量・市民 1 人 1 日あたりの量	<p>・家庭系ごみの排出について、新規の大規模な集合住宅では、ディスポーザの設置が増えていると考えられる。こういった集合住宅の生ごみは汚泥などで処理されると考えられるので、可燃ごみの量は減少すると思われる。それでも可燃ごみが減少していないとなれば、新たな減量施策が必要と考えられる。</p> <p>・ごみを出す際、分別がすぐに検索できるよう、市指定のごみ袋に「ごみと再生資源の分け方・出し方ガイドブック」の QR コードを記載してはどうか。</p>	<p>・豊中市のディスポーザの設置については、「豊中市ディスポーザ排水処理システム取扱要綱」があり、申請をすると設置できるようになっている。近年の設置件数は、平成 27 年度 (2015 年度) から約 3 件から 5 件程度となっている。大規模な集合住宅としては、270 世帯があり、また、戸建ての家屋でも申請があり設置されている状況であるので、大規模な集合住宅が全て設置されているわけではないと認識している。</p> <p>・ごみ出しの日程のお知らせや分別の検索、ごみの減量に係わる情報を配信している「ごみ分別アプリ」の QR コードを市指定ごみ袋の販売用の外袋に記載するよう検討している。</p>	<p>・資料の修正なし。</p> <p>・資料の修正なし。</p>

No	資料 No	審議会委員の意見	事務局の回答等	修正内容等
6	No'5-2 11 ページ 事業系ごみ排出量	・「開発行為で福祉施設や食品スーパーが増加している」とあるが、どの様に調査しているのか。また、要因が特定できているのであれば、記載内容を詳細にしてはどうか。	・市では、開発行為があると延べ床面積 200 ㎡以上の建築物でごみ置き場の設置場所について届出が必要となり、平成 26 年度（2014 年度）から平成 29 年度（2017 年度）の間に、福祉施設が 58 件建設されている。また、実態把握については、福祉施設や食品スーパーなどでごみの組成を分析し、対応を検討したいと考えている。	・「事業系ごみ排出量」の増加については、近年、福祉施設が増えたことにより、水分が多く含まれる紙おむつ等の排出量が増加したことが主な要因と推察されます。 (資料 2-P38)
7	No'5-2 11 ページ 事業系ごみ排出量	・福祉施設から排出される紙おむつについては、鹿児島市等でリサイクルされているが、どの様に考えているのか。	・国でも下水処理で対応できるよう検討はされているが、特に高齢者の排泄物については、病原菌対策など衛生面の事も考えなければいけないので、今のところは、焼却処分することが望ましいと考える。	・資料の修正なし。
8	No'5-2 13 ページ (1)豊中エコショップ制度の構築	・ステップアップ認定制度として、「優良」「優秀」とあるが、どちらが優れているのか。また、メリットはどのようになっているのか。 ・認定店舗のモチベーションが上がる取組みが必要と考えられる。	・ステップアップとしては、「優良」があり、さらに取組みが進むと「優秀」としている。豊中エコショップ運営協議会において、「金」「銀」などの議論があったが、この形で採用されている。また、ステップアップのメリットとしては、「優秀」になっていただくと市の広報媒体である「ごみカレンダー」での広告枠が持てることが一番大きなメリットとしている。「優良」については、この他の広報媒体で店舗を紹介するようにしている。 ・認定店舗のモチベーションについては、運営協議会の役員としても課題と考えているので、協議会でも議論していきたい。	・資料の修正なし。 ・資料の修正なし。

No	資料 No	審議会委員の意見	事務局等の回答等	修正内容等
9	No'5-2 15 ページ (3)自己処理責任の周知及び分別排出を徹底するための情報提供	<p>・「事業者にとってコスト削減につながる情報を提供」とあるが、近年は、分別がコスト削減につながらない場合も出てきている。今後は、持続可能な2Rの取組み方の事例や内容を周知する考え方が必要となるので記載内容を調整していただきたい。また、現在の取組みはどのようにされているのか。</p>	<p>・平成30年度（2018年度）から多量排出事業者の対象を月5tから3tに改訂し、市内300事業所が対象となり前年度より28事業所増加となっている。この28事業者に減量計画書の提出を求め、ごみの資源化を図るよう働きかけていく。コスト削減につながる情報としては、今年度の事業系一般廃棄物管理責任者研修会において、「気象データを用いた商品需要予測による食品ロス削減」をテーマとして実施している。</p>	<p>・立入調査や研修会等において事業者にとって2R（発生抑制・再使用）を推進する上で取組みやすい事例やコスト削減につながる情報を提供し、ごみ減量のメリットを周知する。 (資料2-P42)</p>
10 (F19)	No'5-2 16 ページ (4)商工会議所、NPO等と協働した地域共同回収システムの構築	<p>・再生資源の地域共同回収システムには、NPO法人アジェンダと協力して商工会議所の会員企業も参加している。「協力事業者の拡充を図る必要がある。」とされているが、搬入先が遠方になるので、担い手不足の問題もありコスト増が見込まれている。企業の自助努力だけではなく、このようなシステムに参加する担い手を育成する補助的な考え方が必要である。</p>	<p>・従来の産業を守るような、行政の支援を考えると必要である。また、担い手を育成するシステムの構築が考えられる。 ・昔は一般廃棄物と産業廃棄物の区分が明確に収集していなかったが、近年は、しっかりと区分分けされている。事業者も取組み方に困っている所もある。</p>	<p>・資料の修正なし。</p>
11	No'6-1 19 ページ 第4次ごみ減量計画の進行管理のイメージ（素案）	<p>・ごみ減量プラン事業等報告書（確定版）を作成し、発行する際に、全戸配布を考えているが、ボリュームはどの程度のものか。ボリュームが大きくなると読み手としては、見なくなる傾向がある。 (浅利副会長)</p> <p>・また、発行については、廃棄物減量等推進員との連携でその情報が使えるような内容を記載してはどうかと考える。</p>	<p>・ごみ減量プラン事業等報告書（確定版）のボリュームについては、現在発行している、「フレフレごみ減量通信」と同じA3が2枚分程度のタブロイド判を考えている。</p> <p>・廃棄物減量等推進員との連携としては、地域で活用できるような事例等を掲載することなどを検討していきたい。</p>	<p>・資料の修正なし。 ・資料の修正なし。</p>

No	資料 No	審議会委員の意見	事務局の回答等	修正内容等
12	No'6-1 19 ページ 第4次ごみ減量計画の進行管理のイメージ (素案)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校等の環境学習を行っているが、その副読本的な教材として活用できないか。 ・ リサビットに人気があると聞いたが、リサビットの設定を利用して、子ども達や市民が取組みを進めるような提案をしてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校等の環境学習の教材としては、絵本を発行している。この絵本を改訂するか検討していくので、その際に連動する内容となるのか検討していきたい。 ・ リサビットの設定については、そもそもごみを食べ過ぎて太ってしまったリサビットを痩せさせようという設定があるので、その設定を利用して取組みを進めるようなアイデアを検討していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料の修正なし。 ・ 資料の修正なし。
13	No'6-3 22 ページ 事業等報告書 (確定版) イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第4次の計画では、1人1日28g減らすことを目標としているが、市民が分かりやすい具体的な例示や目標達成するために手軽にできる取組みについても記載してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第4次の計画で目標としている1人1日28g減らすというのは、10年後の最終目標として設定している。直近で達成すべき目標としては、1人1日14g減らすと、焼却処理施設で余力を持って処理できる量を達成できることから、14gをどのように減らせるのか、レジ袋の削減や水切りの効果も含めて取組例を検討し掲載していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料の修正なし。
14	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 豊中市では、一般廃棄物の基本的な処理とごみの減量を2つの計画を策定して、取組みを進めているが、一般廃棄物の減量を全体的にみると一つの計画で完結している方が分かりやすいと考えるので、条例の改訂もあるが、変更していく方向で考えていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 回答なし 	